



「AWS標準化を行うことで、クラウド共通基盤の運用効率化、及び品質向上が実現できました」

住信SBIネット銀行株式会社
システム運営部 基盤グループ長
佐藤 武 様

住信SBIネット銀行株式会社
システム運営部長
岩本 裕次 様

住信SBIネット銀行株式会社
システム運営部 クラウド企画グループ長
渡邊 弘 様

お客様プロフィール



住信SBIネット銀行は、三井住友信託銀行とSBIホールディングスを出資会社とするインターネット専門の銀行です。2007年9月の開業以来、着実に業容を拡大し、現在ではわが国屈指のインターネット専門銀行に成長しています。ITを駆使したイノベーションによって金融サービスを変革し、社会をより快適で便利なものに変えていくことを目標とし、かつ存在意義と位置付けられております。

今回は、クラウド共通基盤の構築にアマゾン ウェブ サービス(以下、AWS)および株式会社シーエーシー(以下、CAC)を採用された経緯について、住信SBIネット銀行株式会社 システム運営部 部長 岩本裕次様、同部 クラウド企画グループ長 渡邊弘様、同部 基盤グループ長 佐藤武様にお話を伺いました。

1. AWS標準化設計・構築のプロジェクト背景

住信SBIネット銀行株式会社(以下、住信SBIネット銀行)では、2017年8月に商用システム系はAWSへ、OA系は別クラウドを利用するマルチクラウド方針とする全面的なクラウドシフトを決定しました。また、商用システムについては、当時利用中だったデータセンターが2020年に廃止される計画と重なり、オンプレミスからAWSへの移行を推進する必要がありました。

住信SBIネット銀行では、「業務継続性／セキュリティ」、「ビジネス加速」、「ワークロード最適化」および「コスト最適化」の観点でAWSを活用することを決めていました。AWS利用にあたり、AWS基盤およびインフラ運用の標準化を検討し、クラウド共通基盤を構築することを計画しました。

実行にあたっては、住信SBIネット銀行システム運営部、AWSのプロフェッショナルサービス(以下、AWS PS)および設計/構築するパートナーの3社によるフォーメーションを進めることとし、自社に合った最適な環境へのリード、プロフェッショナルによる品質の確保と着実な実行を目指しました。

2. 構築パートナー選定でCACを選んだ理由

設計／構築実施のパートナーは何社かに声をかけ、選定することになりました。複数社の提案の中からCACを選定した理由は、構築後も継続的な改善を進める予定のため、共に検討しながら進められること、enterpriseCloud+(以下、eC+)というAWS運用管理に必要な機能を有したマネージドサービスを展開している運営ノウハウ、そして金融機関向けのAWS環境構築の実績があることや、堅実な企業運営などから判断しました。また設計項目がより具体的な提案だった点も大きな選定のポイントでした。

ただし、eC+サービスを利用した”運用管理ベーシックサービス”の採用は見送りました。その理由は、他社のニーズを取り込むなどSaaS形式のサービスの良いところはメリットと考えましたが、住信SBIネット銀行としては自社独自に最適化できる環境を構築したかったため、自社独自の環境構築を選択しました。



システム運営部長
岩本 裕次 様

3.クラウド共通基盤構築にあたっての検討ポイント

クラウド共通基盤の構築にあたっては、アプリケーション開発チームが開発に集中できるようインフラ管理からの解放及びワークロードの最適化を目指し、各システムが共通して利用できるインフラ運用基盤を実装することがテーマでした。

そこで標準化ガイドを整備し、金融機関としての利用・運用のガバナンスを示すと共に、各種設計、マニュアル、構築、運用の効率化を目指しました。

標準化の検討項目は、下表の「標準化検討項目」にある点について、検討を進めました。

共通機能では、主にバックアップ、監査ログ収集、運用監視機能、ジョブ管理の機能を中心に設計を行いました。各システムの構成も既存のシステムチェックリストに応じて、推奨の可用性パターン構成（標準アーキテクチャ）を設計することで、AWS上での構成検討及び自動構築機能による基盤構築・運用の効率化を図っています。



クラウド企画グループ長
渡邊 弘 様

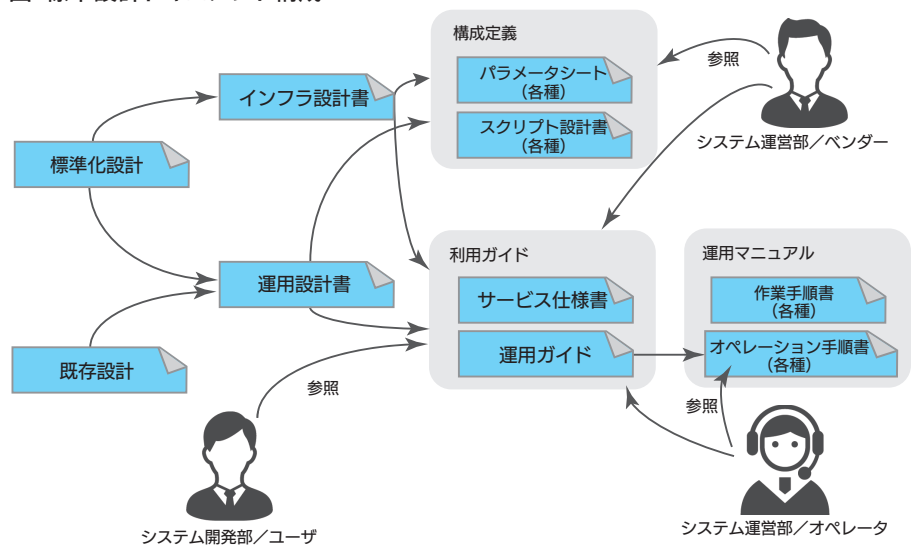
セキュリティに関しては、金融機関ならではの厳格なポリシーを踏襲するため、住信SBIネット銀行のセキュリティポリシーをCACに理解してもらいながら、セキュリティグループ、AWS Key Management Serviceや各サービスの暗号化を踏まえた設計を進めていきました。

監査ログ収集設計においても、金融機関である住信SBIネット銀行のポリシーを理解してもらい、AWS機能の特性を踏まえて、AWS操作ログ、VPC通信ログ、OSセキュリティログのログ収集設計を進めました。

表：標準化検討項目

検討項目	内容
AWSアカウント/VPC分離方針	AWSアカウントとVPC分離方針
ネットワーク	各環境との接続方針、VPC設計
多機能設計	性能/可用性/信頼性設計、可用性/パターン構成（標準アーキテクチャ）、障害時の影響と復旧
セキュリティ	AWSサービス利用方針、VPC内接続方針、暗号化方針、データ共有方針
コスト管理	クラウド共通基盤利用料、コスト監視
システム監視	システム/性能監視、アラート通知、時間外稼働サーバの検知
システム監査	監査および各種ログ設計
AWS基盤基本機能	認証、名前解決、時刻同期、ウィルス対策等
共通化機能	共有ファイルサーバ、パスワード管理、APIプロキシ、リボジトリサーバ、外部ファイル連携
バックアップ/リストア運用	各バックアップ機能、リストア実施方針
ジョブ管理	ジョブ管理の利用方針、機能
自動構築サービス	自動構築方針設計、テンプレート設計
保守運用	役割分担および責任範囲、障害対応/メンテナンス方針
ナレッジ	ベストプラクティス、AWSを利用する際の注意点

図：標準設計ドキュメント構成



その他、統合監視ツールには冗長構成のZabbixを導入し、コスト管理は分配単位で課金費用が把握できるようツールの整備を実施しました。

なお、既存のデータセンターの廃止に伴い、現行データセンターにて稼働しているシステムの移行期限を考慮すると、設計から構築/リリースまでをタイトなスケジュール（約7カ月）で実施する必要がありました。

そのような中、設計から構築/リリースまでを着実に実施し、無事リリースを迎えられたのはCACメンバーの力なくしてはなかったと思っています。



基盤グループ長
佐藤 武 様

4.さらなるAWSサービスの活用を目指して

住信SBIネット銀行では、さらなるAWSサービスの活用として、データベースにかかる費用を大幅に削減するため、インターネットバンキングシステムのデータベースを商用データベースからAmazon Aurora PostgreSQL 互換エディションへ移行し、システムの再構築を実施することを発表しました。

また、今後クラウドPBXを実現するAmazon Connectを利用したコンタクトセンターも展開予定です。

インフラ基盤では、コンテナの活用を検討しているなど、最先端のITを駆使したイノベーションによって、金融サービスの変革を標榜するにふさわしく、今後も積極的なIT活用を推進していく予定です。

◎住信SBIネット銀行株式会社様URL
<https://www.netbk.co.jp/>

※アマゾンウェブサービス、AWS Key Management Service、Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションおよびAmazon Connect、は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。



enterpriseCloud+ に関するお問合せは、弊社担当営業または下記までご連絡ください。



クラウド担当 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町24-1
TEL 03-6667-8049
E-mail cloudsales@ecloudp.com
URL <https://ecloudp.com/>